
人切り

宮本司

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人切り

【NZコード】

N4221D

【作者名】

宮本司

【あらすじ】

人を切れば切るほど名のあがる時代に生まれた主人公。しかし彼は周囲から与えられる名声よりも人を切ることへの苦痛を感じていた。

研ぎ澄ました刃で人を切る。切れば切るほど名があがり地位があがる。そんな時代に私は生まれた。

この世に生を受けたときから人を切ることを運命付けられていた。私の父も祖父も曾祖父もずっと人を切ることをなりわいとしてきた。実際私も毎日人を切り刻む父たちを不快に思うこともなくむしろ誇らしい程であつた。子供の頃は、父たちと共に人を切り刻む日が来ることを毎日夢見ていた。人を切ることがこんなに苦痛なことだと想像もしていなかつた。

初めて人を切つたとき、私はこみ上げてくる嘔吐感を抑えることができなかつた。口を押さえ土手に走り、胃の中を逆流させる私を見て同期生たちはにやにやといやらしい笑みを浮かべていた。いやらしい笑みを浮かべながら人を切り続ける彼らを見てまた嘔吐感がこみあがってきた。

あれから15年。私は数え切れないので人を切つてきた。もう人を切つても嘔吐することも顔を青ざめることもない。しかし何年経とうとも「人をきる」ことに慣れることはない。

刃が人の肉に跳ね返される纖細な弾力感。

その弾力感を押さえつけ肉を引き裂く感触。

引き裂かれた肉から滲み出す血しぶき。

血しぶきの中さらに肉の奥まで刃を押し込む力の入れ具合。

手に顔に飛び散った血がねつとりと皮膚にまとわりつく感覚。

血が大気と混ざつて放つ臭い。

そのすべてが人を切るたびに私に襲いかかる。回数を重ねれば重ねる程、それらは複合しあい、増長しあいより大きな不快感となつていく。

その不快感とは反比例するように私は名を上げていった。父にも「

お前に切られた者は痛みすら感じないだろ？」とさえ言われた。その言葉が私をいまだにこの世界に留まらせているのだろ？。

「先生。今日のオペも大成功でしたね」

「いつ見ても先生のメスさばきには見とれてしまいます」

曾祖父から続く大病院の跡取り医師は介助についた後輩医師や看護婦たちの言葉を聞き流し手術室をあとにした。

手術の予定表を横目に医師は深いため息ついた。

「明日も手術か。また人を切らなければ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4221d/>

人切り

2010年12月19日07時12分発行